

岩手県立花巻清風支援学校 令和4年度 第1回学校運営協議会報告書

1 期 日 令和4年6月7日(火)

2 会 場 本校会議室

3 出席者

(1) 学校運営協議会委員 14名

A委員 地域関係者

B委員 地域関係者

C委員 遠野地区、福祉関係者

E委員 NPO関係者

F委員 企業関係者

G委員 企業関係者

H委員 学識経験者

I委員 行政関係者

J委員 教育関係者

K委員 教育関係者

L委員 PTA関係者

M委員 同窓会関係者

N委員 同窓会関係者

O委員 本校職員

【D委員 北上地区、福祉関係者 欠席】

(2) 岩手県教育委員会事務局3名

学校教育室特別支援教育課長

学校教育室特別支援教育担当 主任指導主事

学校教育室特別支援教育担当 指導主事

(3) 本校職員11名

4 内容

(1) 学校運営協議会事前会 10:00～11:05

①岩手県教育委員会挨拶、昨年度の経緯について、学校運営協議会の説明

【学校教育室特別支援教育課長】

②校長挨拶、本校学校運営協議会の運営について、学校概要説明

【校長】

③学校見学、授業参観

・小、中、高の学部主事からビデオでの紹介

④辞令交付、自己紹介

(2) 学校運営協議会 11:15～12:10

①開会

②役員を選出

・立候補、推薦ないため、事務局案を提案。

・会長H委員、副会長D委員が承認される。

③議事

ア 令和4年度の基本方針の承認

【校長：令和4年度の基本方針の説明】

- ・中部圏域唯一の特別支援学校である本校に課せられた使命は、12年の学校教育を終えた児童生徒がそれぞれの地域社会の中で、一人一人が自分らしい姿で自立と社会参加できる力を育むことにあると考えている。本校に学ぶ児童生徒がその力を身につけられるように、花巻清風支援学校職員一同チームとして教育活動に当たりたいと考えている。
- ・校訓の「明るく 強く たくましく」は、開校当初から不変のもので、全ての教育活動のよりどころになるものと考えている。
- ・教育目標は、「一人ひとりの可能性を伸ばすとともに、自立と社会参加に向けて主体的に生きる人間を育成する。」ということで、具体的には（1）から（4）で示している。
- ・この教育目標を具現化するための学校経営方針と、この学校経営方針の本年度の重点を項目3、4で示している。
- ・個に応じた指導や支援の充実、新しい学習指導要領の理念である生きる力の育成、児童生徒が安全安心に学ぶことができる環境の設定などを踏まえて今年度の花巻清風支援学校の基本方針を示している。
- ・特別な支援を必要とする児童生徒を本校では預かっている。私たち教職員に課せられた使命は12年間の学校教育を通して、本校に学ぶ児童生徒一人一人が自分らしく地域社会の中で生きていく力を身につけて行くことと考えているので、本校の教育理念にもそこにあると考えている。
- ・特に、具体的に教育活動を展開するに当たり、新型コロナウイルス感染症の状況下でもあるので、まずは安全安心健康な学校生活を児童生徒に保障するということが、それから児童生徒個々のニーズに対応した学力、技能の向上を保障するということが、この技能については、技能面と生活面の二つとして捉えている。
- ・三つ目は児童生徒個々の適性に応じた進路実現を保障していくということである。この三点が教育活動を展開していく上で大切なことと考えている。そしてその効果的な実践のために各関係機関や地域の方の力を借りながら様々な学習場面を設定し、その取組を重ねていくことで、児童生徒一人一人にそれぞれ発達段階に応じた自己有用感、自己肯定感、そしてそれぞれの暮らす地域社会への帰属意識を育んでいくことが必要であると考えている。

《質疑》

【M委員】

- ・同窓会親の会の立場として、高等部そして支援学校を卒業した後、社会の中でどう生きていくのか、また、親なき後のことをどうしていくのかが課題となっている。そのためにも個々の生徒が、自力は難しいかもしれないが、生きていく力をどう身につけて生きていけばよいか考えているところである。その意味でも、学校として地域社会の中で生きていく力を身につけていくという話だったので、是非強くお願いしたい。

【校長】

- ・学校の職員としては、学校を卒業し地域社会の中に戻っていくことを学校教育のゴールと捉えがちだが、高等部卒業を新たな人生のスタートとして捉える視点にたつて、進路支援を進めていきたいと思いますということは職員にも話をしている。
- ・先日、事業所の方と話す機会があった。親なき後の人生をどうするかということは入所施設利用者にとっても非常に大きな課題となっていくだろうという話をした。地域社会につながるということは、それから10年20年30年40年と地域の中で生活していくということなので、そのような意識をもって進路支援、定着支援も含め進めていかなければと考えている。今いただいたご意見を学校の中、職員の中で共有し、進路支援を進めていきたい。

【A委員】

- ・私は昨年度から委員に委嘱されて、昨年度は2回目以降実施できず残念だった。
- ・今年度、また委員になって感じたことは、小学校、中学校単位のコミュニティ・スクールと中部圏域という大きな3市1町のコミュニティ・スクールの在り方をどう考えればよいかということである。
- ・昨年度は太田地区から多くの委員が出た。今回のメンバーは様々な分野の方が委員になっている。コミュニティ・スクールというと地域と学校、コミュニティ＝地域と考えているので、地域とは太田地区なのか花巻市なのか、遠野、北上、西和賀まで含めたものなのか良く分からない。
- ・太田地区として、学校の応援団として学校運営協議会で何ができるかが悩ましい。当然学校からお願いされれば協力できるところは協力する。
- ・全国の特別支援学校での取組や広範囲なコミュニティ・スクールの取組がなされていると思うが、本当に地域密着、朝のおはようから見守りを含めというレベルのコミュニティ・スクールと、県立の、広域のコミュニティ・スクールをどう考えてよいか分からない。考え方があれば示してほしい。

【岩手県教育委員会】

- ・校舎が立地している地域が一つのコミュニティで、児童生徒が校舎の立地しているこの地域で活動する、そこに協力いただくというのがまず一つの形である。
- ・加えて、出身地、中部圏域での役割もある。先程委員の方から意見のあった進路のことは居住している出身地とのつながりを活動に含めなければならないと思う。このように多様な方向性があると思う。その在り方も含めぜひこの学校運営協議会で意見をいただく中で、花巻清風として、中部圏域に一つの特別支援学校としての活動を作っていただければと思っている。
- ・広域ということで考えると高校もコミュニティ・スクールの導入を進めている。先日も岩手日報の一面にも載ったかと思うが、高校では地域の探究活動を、自分の出身地や高校の立地している地域との結びつきを生徒自身が考えて学習を作っていくような取組もなされている。またそれぞれの学校で地域に発信していく魅力化について、学校運営協議会の場で意見をいただくという流れもできている。繰り返しになるが、これという形はないので皆さんで協議して作っていただければありがたい。

【A委員】

- ・学校の応援団でありたいと思いつづけているので、その確認だが、今年の太田地区振興会の事業方針の中に前からあった 50 周年記念行事への協力という文言で、何か要請があったらお応えしましょうということである。
- ・近くのりんご園のりんご狩り、太田地区の社会体育館の清掃実習、かあちゃん市をはじめ様々なことで地区の方が学校に出入りして、できる限りの協力をしたり一緒に学んだりということがあったが、従来どおり継続すると考えてよいのか。

【校長】

- ・本校は中部圏域から児童生徒が集まってきているが、その児童生徒を育てるという部分で太田地域の方々のお力を従来どおりお借りしたいと考えている。
- ・また、逆に我々が児童生徒と共に太田地域の方々と一緒に活動し、そして太田地域の方々の役に立ったという実感を見習いにもってもらって、そこで自己有用感や自己肯定感を育んでいきたいと思っているので、今までどおり太田地域の皆様には、御協力をいただきたいと考えている。

【K委員】

- ・重点の特別支援教育のセンター的機能に関わってだが、中学校で特別支援教育、支援学級で困る、悩むことが多いのは情緒障がい支援学級に在籍の生徒の進路である。花巻清風は知的障がいと肢体不自由の特別支援学校で、知的の面で該当しないと小中学校を情緒障がいの支援学級で過ごしてきた生徒が入学できないということが多く、親御さんを含め悩むことが多い。
- ・花巻清風支援学校での教育相談、進路相談で助けられている。今後も地域の特別支援教育の中心として支援や協力をお願いしたい。

【会長】

- ・学校の基本方針については承認事項になっているので、挙手という形で承認いただけるかを伺いたい。

～全員挙手で承認～

イ 今年度の取組、課題等について

(ア) 令和3年度学校評価結果について

【事務局】

- ・教職員の働き方については、「定時退庁日の設定」「留守電の導入」等を進めながら改善していきたい。
- ・保護者からの評価はおおむね良好であった。今後さらに教育活動や支援の充実を図ってきたい。

(イ) 創立 50 周年記念事業について

【事務局】

- ・コロナ禍であるため規模縮小で取り組む。11月3日に「こたままつり」と併せての開催を予定している。児童生徒の活動の中でお祝いする形で実施する。

(ウ) 卒業生の進路について

【高等部副校長】

- ・ 中学部生徒の進路先は、ほぼ花巻清風支援学校の高等部である。
- ・ 高等部では、就労支援B型と生活介護事業所への進路が多くなっている。特に生活介護については、空きがなくなりつつあることが今後の課題である。

(エ) 地域との連携、協働の状況について

【事務局】

- ・ 資料のとおり。
- ・ コロナの状況下での取組が課題となっている。

ウ その他（各委員からの提言、感想）

【A委員】

- ・ 道の駅の出店スペースを花巻清風の作業製品販売に確保していた。地元としては、またJAも道の駅もスペースを確保してあると言っているの、年間8千円はかかるが再度の常設の販売について検討してほしい。

【B委員】

- ・ 地域の役員をしているが、これからも積極的に地域貢献、社会貢献をしていただければ大変ありがたい。

【C委員】

- ・ 将来や親なき後という話もあったが、保護者には、いろいろなタイミングで情報が必要になってくる時期がある。特に高等部の保護者に関しては、ある程度将来設計や将来に必要なことの情報を早い段階から提供できるような体制を作っていくとよいのではないかと。

【I委員】

- ・ 相談支援専門員の方や保護者会の会長さんがおっしゃったように、親なき後について、行政では地域生活支援拠点等整備を各市町村が進めている。花巻市は令和3年度3月で体制を整備した。それぞれのニーズに合ったサービスを提供できるように、積極的に取り組んでいきたい。

【F委員】

- ・ 成年後見業務を行う関係で、就労継続B型事業所を利用している方や施設入所の方などの成人した後の方に関わることが多い。その多くの方がこちらの卒業生なのでこの学校がよりよくなれば将来的にも皆さんのためになると思い参加している。
- ・ 福祉との関わりで、いろいろ協力したいと思っているが、具体的に何をしたらよいか分からない場面が多いので、具体的にどのようなことに協力が欲しいかという情報をもっと発信していただければより手伝える機会も増えるのではないかと。

【G委員】

- ・ 先程承認された基本方針を読んでいて、社員教育や社訓、企業の経営方針等と比べても同じような内容になっており、学校も企業の運営も人の原理原則に沿ったものなのかと感じた。様々な所とつながることが大事だと大変勉強になった。

【E委員】

- ・この会に参加して、立地している太田地区や遠野分教室、北上みなみ分教室などでの地元との連携や、地元の教育力が感じられ敬意を表したい。
- ・私たちの放課後デイでもコロナ禍で外出活動を控えてきたが、これからコロナと上手につき合いながら地域に出て、ショッピングや行事などに子供たちと参加して自立の促進や地域の方の理解につながるような活動をやっていかなければならないなど改めて感じた。
- ・職員の働き方改革についての話が出たが、協議会のメンバーで協力できることがあれば、次回以降何らかの話が可能ではないか。

【K委員】

- ・先ほど、述べたとおり。

【J委員】

- ・コロナ禍でもあるが、先程から言われている何かできることはないかということで、まず一緒に交流できることを楽しみにしている。

【L委員】

- ・子どもが高等部3年生で、今まさに就職という狭間にいる。この学校運営協議会の中で、子供たちの将来を考えていただいていることをものすごくうれしく思っている。子供たちのため、学校のためによりしくお願いしたい。

【M委員】

- ・同窓会保護者会としては、PTA、学校と連携して対応していきたいと思っている。

【N委員】

- ・今コロナの中で、こたままつりも同窓会もなく、卒業生が学校に集まれないでいる。私なりに卒業生の親たちと連絡を取り合って、月に1回は何人かで集まって情報交換をしている。
- ・私はさき織りをやっていて、子供が在学中から材料を集めて学校に寄付していた。私なりの協力の仕方でも今後ずっと頑張ってお応援していきたいと思っている。

④連絡事項

【事務局】

- ・第2回については、10月19日水曜日に予定している。
- ・第3回は、2月中旬で計画したい。期日調整中のため、第2回の際に連絡する。

⑤閉会